令和元年５月２７日
新潟県病害虫防除所

令和元年度

新潟県病害虫発生予察速報第２号

（モモせん孔細菌病の発生状況と防除対策）

１　発生状況

（１）　５月上旬の春型枝病斑発病枝の発生量は、前年から大幅に減少したものの、定点調査ほ８園地全てで認められ、中発生園地（発病枝率６～15%）も確認された（表１）。

（２）　５月下旬の病害虫防除所の巡回調査において、春型枝病斑発病枝率の高い地点を中心に発病葉が急増した（図１）。５月下旬時点の発病葉率としては、過去10年間において前年に次いで２番目に多い発生である（表２）。

（３）　気象庁５月23日発表、向こう１か月予報によると、降水量は平年並の確率が40%と予想されている。

（４）　今後の降雨や強風により枝病斑から新葉や果実に伝染し、発病することが懸念される。

表１　春型枝病斑発病枝の発生状況（定点調査ほ８園地）

地点	年次	
	平成30年	令和元年
新潟市南区	16.0	4.0
新潟市南区	34.7	8.7
新潟市南区	23.3	3.3
新潟市西蒲区	49.3	9.3
三条市	18.0	2.7
加茂市	5.3	3.3
田上町	4.0	2.7
田上町	5.3	0（稀）
県平均	19.5	4.3

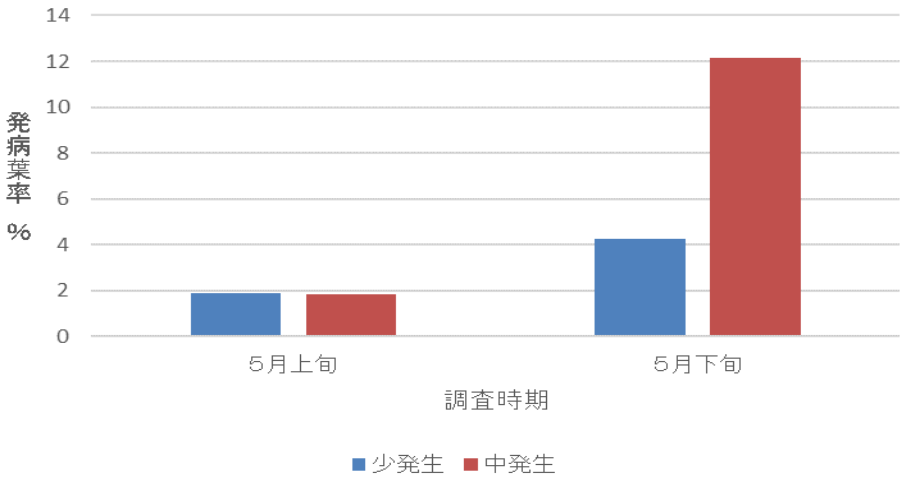

図１　春型枝病斑発病枝率の発生程度別の発病葉率の推移（定点調査ほ８園地）

注）春型枝病斑発病枝率１～５%を少発生、６～15%を中発生とした。

表２　モモせん孔細菌病の葉の発病状況（定点調査ほ８園地）

年次	発病葉率　%								
	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬
平成21年	0	0	0.7	1.7	1.8	5.4	34.3	54.8	69.9
平成22年	0	1.9	1.2	2.3	1.6	2.3	3.8	8.5	10.3
平成23年	0	0.6	3.4	3.9	8.2	41.1	33.0	37.5	31.4
平成24年	10.8	1.3	1.0	0.5	0.7	0.4	5.9	9.2	13.6
平成25年	1.4	1.0	1.1	0.4	2.0	3.2	10.6	10.5	23.7
平成26年	0	1.9	6.3	6.7	7.5	25.8	36.7	47.2	50.6
平成27年	0.9	2.3	6.0	7.5	8.6	19.5	30.5	41.3	52.7
平成28年	2.3	5.2	6.8	11.2	12.8	22.9	39.4	44.3	55.3
平成29年	0.3	3.3	3.4	6.2	8.4	16.5	37.3	40.6	43.9
平成30年	9.5	10.5	10.1	14.5	12.9	18.8	27.7	25.7	26.1
令和元年	1.9	6.2							

２　今後の対応と注意点

（１）　発病枝（春型枝病斑）やその周辺の発病葉は、伝染源となるため見つけ次第除去し、園外に搬出し適切に処分する。

（２）　果実感染を抑制するため、早期の袋かけに努める。また、発病果も伝染源となるため除去を徹底し、薬剤防除をしたうえで速やかに袋かけを行う。

（３）　病原細菌は葉や果実の気孔等の自然開口部、またはモモハモグリガや風雨等による傷口から侵入するため、防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除を徹底する。

（４）　耐性菌の増加を抑制するため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤を交互に使用する。

春型枝病斑発病枝
（結果枝が紫黒色に変色し、芽枯れや亀裂を伴う）
※写真では周辺の一部の葉に発病がみられる

幼果の発病（褐色小斑点）

新梢葉の発病（淡黄色から褐色に変化する）